

滋賀県立

聴覚障害者センター

だより



— 96号 —

発行日／令和2年1月10日

発行所／草津市大路2丁目11-33

TEL 077-561-6111

FAX 077-561-6133

HP <https://shigajou.or.jp>

映像制作の技術、最近の動きを学び、 よりよい情報の発信を 聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会に参加して

11月13日（水）から15日（金）、岩手県立視聴覚障がい者情報センターで、NPO法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会の主催で、聴覚障害者向けソフト制作担当職員研修会が開催されました。

担当者間の情報交換を行うことで、今後の制作などに生かしていくことが目的です。今回の研修会には、全国から28施設1団体の33名が参加しました。

福祉制度や差別解消法の 合理的配慮を活用する

この研修会は聴覚障害者情報提供施設が制作する聴覚障害者向けの映像等について、最新の取り組みや研究に学び情報提供施設の役割を考えると、制作の基本技術やスキルアップを図り、



講義 プラスヴォイスの三浦社長

まず始めの講義は、「聴覚障害者に対する事業の取り組みから」をテーマに、(株)プラスヴォイス社長の三浦宏之氏が講師を務めました。氏が聴覚障害者に関する事業に関わった話から、現在、行っている事業（ICTやメディア事業）のなかで、遠隔手話サービスについての話があり、同サービスが企業に求められている合理的配慮の一つとして捉え、現在の努力義務から、

いずれは法的義務になると先行して取り組んでいることとの意義について話がありました。また行政（東京都港区等）と契約し代理手話サービスを実施しているが、この分野は情報提供施設の方がやり易いのではないのではないかと話もありました。また、2021年度から電話リレーサービスが国の公共インフラになることで、利用者である聴覚障害者が電話の仕組みや役割などを学ぶ必要性について、電話リレー先進国のアメリカの例（ろう学校でリレーサービスの実習や仕組みを学ぶ時間を設けている）を基に話され、公共インフラになる前に取り組みなければならぬ課題などを学びました。



ワークショップ 編集作業、討論

データベースが重要になること。大学の立場から情報提供施設に期待するのは、地域の手話や失われつつある手話表現などのデータベース、聞こえない人の生活、職業、歴史、スポーツなどを撮った映像をどんどん撮ってデータベース化し、情報共有が出来たら良いと期待を込めて話されました。

最新の先端技術をどう使うか 今後の鍵

情報交換会では、最新の先端技術（5G、AR技術など）を映像制作やITに生かせないか様々な意見交換をしました。今後「5G」環境になると、インターネット接続も楽になり、特に高齢者も使い易くなるとの期待もあり、来年のオリンピック・パラリンピックに向けて、最新技術が出てくるのを注視していきたいと思いました。

2日間の午前は、「電話リレーサービスの動向」と題して小竹専門委員が、公共インフラ化に向けた動向や課題、情報提供施設の役割などについて報告がありました。続いて、全聴情協のホームページの更新や動画のアップロードの方法など、デフVグループより説明がありました。今後は、ホームページで様々な情報が発信されるよう担当者間の協力を進めたいと思います。

午後は、基礎と応用に分けてワークショップ



シヨップを行い、映像制作のノウハウを学びました。

3日間の研修を通して、他施設の取り組みやITなどの新しい情報を学べ

ることで、自分自身も新しい動きを学び、様々な映像を制作し、情報を発信していきたいと考えています。

(ビデオ制作担当 山口健二)

質の高い手話通訳の提供を

「近畿のコーディネーターが集まり研修」

全国聴覚障害者情報提供施設協議会(全聴情協)では、6つの地域ブロックごとに事業テーマに基づく研修を開催しています。今回、近畿・東海第4ブロックでは、コーディネーター研修会を企画し開催しました。テーマは「手話通訳事業の業務評価と改善」です。

手話通訳事業所の

評価システムに向けて

手話通訳事業の業務評価は、手話通訳事業を福祉サービスと位置付けたとして第三者が評価するもので、評価実施の可能性について、これまでも関係団体等が検討してきました。

2004年には日本手話通訳士協会、2008年には全国手話通訳問題研究会が本検討に關しての報告書をまとめています。全聴情協では、「近畿合同機構」(近畿2府4県の聴覚障害者協会及び法人)での検討をもとにアンケート形式で業務評価基準について意見集約を行い、今後の全日本ろうあ連盟他4団体で創設される検討チームで事業所評価システムの構築へと繋げていく予定です。

現状の事業に

当てはめて考えてみる

さて、今回の研究会では、派遣コーディネーター、担当者の立場から、評価基準として適正な項目があげられているか、評価を上げるために何が必要かなどの意見交換を行いました。たとえば、「十分な見解・経験等を有した職員を安定した状態で配置している派遣事務所は評価をAランク、配置していない事業所はCランク」とされる評価基準は適正かどうかなど、10数項目の中から5例を上げてグループ検討しました。

各施設の地域性や担っている事業がまちまちなので一概には言えませんが、聴覚障害者の生活を豊かにし、聴覚障害者の権利を行使するために必要な手話通訳派遣事業は、いつでもどこでも質の高い手話通訳サービスを提供することを目標に事業を展開することが求められています。今後、社会福祉の改革がすすみ、福祉サービス従事者として私たちが何をすべきか、重く問われている部分でもあります。

健康で活動が続けられるように ～今年も頸肩腕検診を実施～

滋賀県では、県と各市町、当法人が主体となり、登録手話通訳者と要約筆記者が健康に活動できることを目的に、全登録者を対象に特殊健診(頸肩腕健診)を年1回実施しています。

今年度は、10月24日、25日に二次検診を実施しました。

問診票の

回答率は90%を超え過去最高に

一次検診(スクリーニング)として、各登録者や専任手話通訳者全員に問診票を配布し、セルフチェックを行います。滋賀医科大学の北原医師の診断のもと、さらに検診が必要であると判断された方は、二次検診を受けていただきます。また、専任手話通訳者には全員受診していただいています。今年の一次検診の際に提出する「問診票」の回答率は手話通訳者、要約筆記者ともに90%を超え、過去最高となりました。

二次検診の場では、同時に相談ブースも設けており、健康面だけではなく活動していく上での悩みや様々なことについて話をする場として活用

されています。今年は、56人が二次検診を受診しました。

健康についての意識の高まりを

この診断結果を踏まえて、健康管理講習会を開催することが通例となっており、あらためて自身自身の健康についての振り返りと予防法を学ぶ機会となっています。

啓発や学習の積み重ねにより、事業の目的や検診の意義が徐々に理解され、一定の効果が現れてきました。大きな変化は見られないものの、毎年続けてきたこともあり、普段の生活や仕事、活動のなかで工夫をする様子も見られ、意識の向上が感じられます。

手話通訳者や要約筆記者の健康を守る取り組みは、手話通訳者・要約筆記者とろう者・難聴者双方の人権を守ることに繋がるという視点が求められます。学びや取り組みがなければ手話通訳者や要約筆記者の健康問題は後退します。また、一人では健康は守れません。仲間が手をつなぎ、みんなでみんなの健康を守るための取り組みを続けていきたいと思います。



保護者学習会 のびのびサロン

10月5日(土) 聴覚障害者センターにて「主体的に生きる力をはぐくむ関わり」として金沢大学教授の武居渡氏を講師にお招きして開催しました。とても深く、しかも分かり易い内容で、あつと言う間に時間が過ぎました。

印象的だったのは、聴覚障害児の言葉伸ばすために語彙の力を矢印(→)に例えて説明いただいたことです。それはどういうことかと言うと、人工内耳や補聴器をつけて言葉が入るようになった子どもの語彙数はまだ少なく、したがってコミュニケーションの矢印も短い。だから大人が矢印を延ばして子どもの言葉に届けてやるのが大切なのだということです。つまり大人から「こういうこと？」と子どもの言いたいことを察して示してやる必要があるのでそうです。すると子どもは「なるほどそういう風に言えばいいのか」と理解できて語彙が増えていくのだそうです。今回は親子手話タイムを担当



のびのびサロン 講師 武居 渡氏

する3名のろう者も参加し、おしゃべり会でも様々な視点で意見交換ができました。

今年のクリスマスお楽しみ会は12月1日(日)能登川コミュニティセンター

聴覚障害児交流企画

クローバークラブ

にておもしろ科学実験をしました。電気を通してキーを作る実験、ランチタイムに試食。午後はスライム作りやスプーン曲げをしました。教えて頂いたのは元中学校の科学の先生、大橋正人さんです。参加は子ども14名、大人11名の合計25名でした。大人も子どもも興味津々で説明を聞き、考えて、体験する一日となりました。

クローバークラブは学齢期(小学校から高校生まで)のお子さんが対象です。年齢の違う難聴のお友達に会える、普段は会えない他市のお友達に会える場です。お母さんやお父さん同士もおしゃべりの花が咲いていました。来年はどんな内容にしようかと今から考えています。



電気パンの出来上がり待って。ワクワク。



できたー！
良い香りに
うっとり♡

初の企画！ 青年講座を開催

12月21日(土)、草津市立サンサンホールにて「聞こえない若者と大学生とのクリスマス交流」を開催しました。

同講座は、県立聴覚障害者センターの主催で、(一社)滋賀県ろうあ協会青年部と龍谷大学手話サークル「D・A・Y」の会員らが参加し、一日交流しました。

参加者は、ろう者13名、聞こえる人15名(内、手話サークル14名)合わせて28名とたくさんの若者が集まりました。

講座では、自己紹介からのグループ分け、さまざまなゲーム、手話についてのプチ勉強会をして最後にゲームの結果発表をして全員に賞品！有意義な時間を過ごすことができました。

◎参加者の感想です。

ろう者との交流がこんなにも深められるとは思わなかったです！手話を学ぶことが結構あり、とても貴重でした！ありがとうございました。

(龍大2回生)

ろうの方との交流は貴重な機会でした。手話はもちろん、伝え方など様々なことを学べたし、もっと手話を学びたいという気持ちが強くなりました。大変なこともあったけれど、とても良い経験ができて良かったです。ありがとうございました。(龍大2回生)

自分の知らない手話を知れて学べました！交流の機会が多く良かったです。(龍大1回生)

初めて大学生との交流企画が企画され、大変良い機会になりました。今回の反省を踏まえて、来年も開催できれば、工夫してお互い分かりやすい企画を作っていきたいと思いました。

(ろうあ協会青年部長 森田英昭)



全員集合！

きこえの相談窓口に ～米原市できこえの相談会開く～

当センターでは、毎月1回土曜日に「きこえの相談」を実施しています。この事業は、難聴者や中途失聴者の聞こえの程度を検査するほか、聞こえに関する不安や悩みについての助言を言語聴覚士が行うなど、聞こえの相談窓口としての役割を担っており、毎年40～50人を超える方々に利用いただいています。毎年、センターから離れた遠方の利用者のため、湖北や湖西、甲賀地域に出かけて相談会を実施しています。

聞こえの悩みに応える

去る11月16日（土）の、湖北みみの里（米原市）を会場にした相談会には、長浜市と米原市から3名の相談者がありました。通信販売で購入した補聴器が役立たないと感じていた相談者には、きちんと調整した補聴器で試聴することが必要なことを助言されました。また、補聴器をあらためて購入する場合は、認定補聴器店で試聴してから購入するよう勧めました。相談者は、聞こえづらさを理解してもらえたという安心感や、困りごとを話す中で心が軽くなれたようで、笑顔で会場を後にしました。

聞こえの状況を知ることから

一言に「難聴」と言っても、その人の聴力やどの機能が損傷しているかによって聞こえ方は様々です。「耳が遠くなったら補聴器をつければ大丈夫」と思われがちですが、補聴器ですべて解決するとは限りません。まずは身近な医療機関や当センターが実施している「きこえの相談」等で自分の聞こえの状況を把握することが大切です。その上で自分の聞こえの状況に合った補聴器や補聴支援などを活用することが大切です。

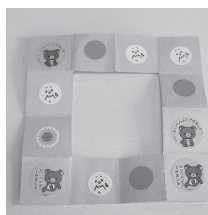
くらしに役立つ話しとおしゃべり会 ～いきいき情報教室～

昨年度から、県内のあちこちに出かけて開催している「いきいき情報教室」です。11月21日（木）に初めて愛荘町で開催しました。会場は福祉センター愛の郷、時間は午前10時から12時です。講座のテーマは「高齢者福祉サービスについて」お話しいただいたのは愛荘町福祉課地域包括支援センターの主任介護支援員 中村光男さん、福祉課職員 藤野仁美さんです。愛荘町のホームページをご覧になったことがありますか。かわいらしいキャラクターで、福祉サービスが分かりやすく載っています。それをもとに、介護保険制度の概要から、愛荘町のサービスまでわかりやすくお話しいただきました。

さらに、簡単な手作りの道具で脳トレもしました。見たところ簡単そうなのに、全員がああでもないこうでもないという組み合わせ、あっという間に時間が経ちました。

講座のあとはおしゃべり会をしました。交通が不便だと言いつつ、皆さんバスを利用して、手話サークルなどの活動を頑張っておられる様子がよくわかりました。これからも時々こうして集まって思いを出し合う場が必要だと感じました。

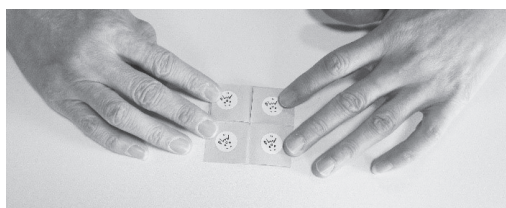
いきいき情報教室は滋賀県内の聴覚障害者を対象にした日曜教室事業です。これからも地域の方々の生活に役立つ内容で開催していきます



この何でもない紙を



脳をフル活用して



同じ絵を4つ揃えます

タツノオトシゴ

昨年からNHK朝ドラは信楽が舞台になり、今年始まった大河ドラマは、滋賀ゆかりの戦国武将、明智光秀が主人公です。NHK効果で滋賀ブーム到来かも♪

マイナー県と言われることもある滋賀ですが地理的に重要な場所であったため、歴史・文化的資源が豊富に存在する県だそうです。白鬚神社、延暦寺等の寺社仏閣、当協会でもお馴染み狸の焼物で有名な信楽焼は六古窯のひとつ、永源寺は木地師発祥の地、国宝彦根城にゆるキャラ界のカリスマひこにゃんと、古の時代から現代まで、思いっくだけでもあふれる文化資源です。

NHK効果で滋賀の文化を再認識しました。今年は、地元観光に力を注いでみたいです。まず、伊吹の薬草風呂に入って、長浜で鴨鍋かな♪

(U・K)